

廁うんちくカレンダー

便所は、日本の家のなかでも、職人がとくに気をこぼる
ところであるが、じっさいには、あまり目立たない。おそ
らく、人の目にとまらないところにあるためである。建
物のなかでは、便所が不快の元凶とされ、とくに公共の建
物では、なおさらそうである。しかし、日本の上流階層の
家では、アメリカの大都市の豪邸にあるような、不快さや
危険性はない。いなかの便所は、たいてい、ちいさな箱
のような形をしており、主家からはなれてたつ。その出入口
は開き戸である。都市の上流階層の家では、住宅のすみに
あり、たいていは縁側のはしにある。ときには対角線上に、
二つとられることもある。参考図のプランにみるとおおよ
だ。妙な迷信がたくさんあり、これによって便所の位置を
定めるわけだが、おそらく中国のフウシュイ(注 風水)のまねであろう。便所は二つの部分からなり、はいったところに、木
製の磁器の小便器がある。磁器のものをアサカオとよぶが、これはその形が朝顔の花に似ているからであろう。文字どおりの意
味は「朝の顔」である(図一)。木製のものには、モミの枝がはいっているとおおしい。これはときどき補充される。おくに
はいると、床に長方形の穴があいている。上流階層の家では、この穴に取手のついたカバーをかぶせる。この穴のまわりの木
に漆をぬることもある。これらの便所にわらは、薬のソウリや、木のゲタをおく。



図一 浅草商家に付設された便所

便所の内部は、工夫のあとがみられるものが多い。図二は、ふつうの便所のようすである。図三は、日光のちかく、ハチイシの旅
館にある便所のひとつである。図の手前、板張りの縁側がみえ、右にまがると、とちゅうで廊下の幅がせまくなる。その廊下
は自然のままもちいられた木の幹でふちどられている。左のほうにちいさな戸棚の一部がみえる。天井は、板をあんだけうな
仕上げであり、腰は竹でしあげている。小便所の入口部分の壁は、ねじれたブドウの木でふちどられている。これだけ、ほかの
自然木をつかうこともある。そのおくに開き戸があるが、開き戸がつけられたのは、台所の階段下の物入れと、こたけである。
なお、便所の屋根は桶登り(桶登り)で、これについてはすでに述べた。外壁にそって垣根があり、そのまに花や木がうえてある。これ
が上流階層の典型的な便所の姿だ。水桶と洗面器をおく四本足の箱がみえるが、これは外人客のためのものだろう。この場所には、
チョウズバチがおかれ、手拭いがつりさげられるのがふつうである。

このような日本の農村の旅館の便所をみると、キリスト教国にみる農村のおなじ道具をおもいおこさせ
る！
図一は、東京の浅草にある商家の便所である。色のことなる各種の木をちりばめたデザインがみえるが、
それは美しい指物の例である。内部は、仕上げもつよく、掃除もゆきとされている。
便槽は、半分ほどの大きさの油壺や、大きな陶製の容器などである。これを地面にうめこんでいるので、
外から汲みとるのらくである。教目おきに、この汲みとりがおこなわれる。尿尿が農業にとってたいへん
たいせつなものであることをしめすような話がある。広島のある安アパートでは、ヘヤに三人すめば、
そのうちの一人の家賃は、三人の排泄物の代金で相殺されるという。おなじヘヤを五人でかると、ヘヤ代
はただになる。シニョウを肥料としないならばならぬ日本の農民にしてみれば、その価値と重要性とは、き
わめておおきいのだ。農村の道端には、旅行者が用をたせるように、カマヤタルがうめられている。
アメリカ人としての判断をたすとすれば、このようなものを尊重する日本人は、アメリカンに欠ける、といわねばなるまい。
あえて正確に言えば、あまりにもおおきすぎるのだ。英語を話す国国民はまったく排泄物であるが、これらの代表がこのこ
とについて、多少まじめな口調で、あたまた日本人をバカにするのである。しかし、日本人は、たいせつな肥料をあつめてい
るんだ、という気持ちがあるために、シニョウにたいする感情も、にぶくなっているのではないかと。じっさい、これをかくそうと
しても、ムリである。東京などの大都市から、郊外の田舎まで、まるいオケにシニョウを、といわゆるこたけのだから、もの
わりのいい人がこのような光景を目撃しない、日本人の汚物処理はまったく無駄がない、というだろう。そしてもうひとつた
してみても、きたない地下室や地下の下水管で、病原菌のいっばいの入江をつくりだすことになり、あまり効果があがっている
とはいえない。日本には、こういっただけのものはないのである。



図二 便所の内部

図三は、日光のちかく、ハチイシの旅館にある便所の内部である。この汲みとりがおこなわれる。尿尿が農業にとってたいへん
たいせつなものであることをしめすような話がある。広島のある安アパートでは、ヘヤに三人すめば、そのうちの一人の家賃は、三人の排泄物の代金で相殺されるという。おなじヘヤを五人でかると、ヘヤ代はただになる。シニョウを肥料としないならばならぬ日本の農民にしてみれば、その価値と重要性とは、きわめておおきいのだ。農村の道端には、旅行者が用をたせるように、カマヤタルがうめられている。アメリカ人としての判断をたすとすれば、このようなものを尊重する日本人は、アメリカンに欠ける、といわねばなるまい。あえて正確に言えば、あまりにもおおきすぎるのだ。英語を話す国国民はまったく排泄物であるが、これらの代表がこのことについて、多少まじめな口調で、あたまた日本人をバカにするのである。しかし、日本人は、たいせつな肥料をあつめてい

私は、京都や奈良の寺院へ行って、昔風の、うすぐらい、そしてしかも掃除の行き届いた廁へ案内されることに、つくづく
日本建築の有難みを感じる。茶の間もいいにはいり、トイレは実に精神が安まるように出来ている。それらは必
ず母屋から離れて、青葉の匂や苔の匂のして来るような植え込みの蔭に設けられてあり、廊下を伝わって行くのであるが、そのう
すぐらい光線の中に入らずに、ほんのり明るい障子の反射を受けながら瞑想に耽り、または窓外の庭のけしきを眺める気
持は、何ともいえない。漱石先生は毎朝便通に行かれることを一つの楽しみに数えられ、それはむしろ生理的快感であるとい
われたそうだが、その快感を味わう上にも、閑寂な壁と、清楚な木目に囲まれて、眼に青空や青葉の色を見ることが出来る日
本の廁ほど、恰好な場所があるまい。そうしてそれには、繰り返して言うが、或る程度の薄暗さと、徹底的清潔であること、
蚊の呻りさえ耳につくような静けさが、必須の条件なのである。私はそういう廁にあつたり落ちる水滴が、石燈籠の根
を好む。殊に閑寂な廁は、床に細長い掃き出し窓がついているので、軒端や木の葉からしたたり落ちる水滴が、石燈籠の根
を洗い飛び石の苔を湿らして土に沁み入るしめやかな音を、ひとしお身に近く聴くことが出来る。まことに廁は虫の音によ
く、鳥の音によくと、月夜にもまたふさわしく、四季おりおり物のあわれを味わうのに最も適した場所であつて、恐らく古来
の俳人は此処から無数の題材を得ていたのである。されば日本の建築の中で、一番風流に出来ているのは廁であつてもいいな
くはない。総べてのものを詩化してしまふ我らの祖先は、住宅中で何処よりも不潔であるべき場所を、かえって、雅致ある
場所に変え、花鳥風月と結び付けて、なつかしい連想の中へ包むようにした。これを西洋人が頭から不淨扱いにし、公衆の前
で口にすることをさへ忌むのに比べれば、我らの方が遙かに賢明であり、真に風雅の真髄を得ている。強いて欠点をいうなら
ば、母屋から離れているために、夜中に通うには便利が悪く、冬は殊に風邪を引く憂いがあることだけれども、一風流は寒さ
の温気がして来るなどは、寢にイヤなものである。ところで、数寄屋普請を好む人は、誰しももういっぺん日本流の廁を理想とす
るのであるが、寺院の上には、家に広い割りに人数が少く、しかも掃除の手が揃っていない所はいいが、普通の住宅で、あつた
つい汚れが目立つのである。で、これもトイレのタタンクや便器を取り替へる、浄化装置にするのが、衛生
的な風であれば、手数を省けるということになるが、その代り「風雅」や「花鳥風月」とは全く縁が切れてしまふ。彼処がそん
な風になつて明るく、おまけに四方が真っ白な壁だらけでは、漱石先生のいわゆる生理的快感を、心ゆく限り享楽する気分
になりにくい。なるほど、隅から隅まで純白に見え渡るのだから確かに清潔には違いないが、自分の体から出る物の落ち着き
先について、そのまま念を押さずともことである。いくら美人の玉の肌でも、お尻や足を人前に出しては失礼であると同じ
ように、あまふく出てくるのは余りといへば無難千万、見える部分が清潔であるだけ見えない部分の連想を挑発させ
ないようにする。やはりあつた場所、まあやとした薄暗がり光線で包んで、何処から清浄なり何処から不浄になつても
けじめを腰線とぼかして置いて置いた方がよい。まあ
そんな訳で私も自分の家を建てるとき、浄化装置
にはしたものの、タイルだけは一切使わぬよう
にして、床は桶の板を張り詰め、日本風の感じ
を出すようにしてみたが、さて困つたのは便器
であつた。というのは、御承知の如く、水洗式
のものは皆真っ白な磁器で出来ていて、ピカピ
カ光る金属製の把手などが付いている。ぜんた
い私の注文をいへば、あの器は、男子用のも
女子用のも木製の奴が一番いい。蠟塗りにした
のは最も結構だが、木地のままで、木目を経
るうちには適当に黒ずんで来て、木目が魅力を
持つようになり、不思議に神経を落ち着かせる。
分けてもあの、いささか木製の朝顔に青々とし
た杉の葉を語めたのは、眼に快いばかりでなく
些の音響も立てない、極めて理想的というべきで
ある。私はあつた真似は出来ないまでも、せめて自分の好みによつた器を造り、それへ水洗式を応用するようにして
みたいと思つたのだが、そういうものを特別に銕えると、よほどの手間と費用がかかるのであつた。そして
その時に感じたのは、照明にしろ、暖房にしろ、便器にしろ、文明の利器を取り入れるのに勿論異議はないけれども、それ
ならそれで、なせもう少しわれわれの習慣や趣味生活を重んじ、それに順応するように改良を加えないのであるか、とい
う事であつた。



図三 日光 鉢石村旅館の便所

エドモンド・S・モリス 「日本の住まい・内と外」 鹿島出版会
エドモンド・S・モリス
明治10年来日し、大森貝塚を発見、初代東京帝国大学動物学教授。有名な「日本その日の日」を著し、日本
の住宅の人類学的研究の著書「日本の住まい・内と外」で江戸から明治期にかけての住宅・生活環境の貴重な記
録を残す。

谷崎潤一郎 「陰影礼讃」より

ダ・ヴィンチ・トイレ



イタリアのフィレンツェのPIAZZA DEL DOUMOにDOUMO 建設に従事した人々と今日までDOUMOの保守、管理に係わってきた建築、工芸職人、画家および関係者のみがあり、現在でも使用してきている廁がある。



つまりレオナルド・ダ・ヴィンチも当然使用したと考えられる廁が健在である。DOUMO から少し離れた南側の小さな2階造り建造物内にある。1300年代から長年、使用されてきただけに、さすがの大理石も足の位置などは大きくくぼんで 歴史の流れを感じさせるものである。

様式は日本のいわゆる和洋式であり、座位で使用するのではなくしゃがんで使用するものであり、その香りから汲み取り式の廁であると考えられる。

2006年

1 月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

街を歩いて

旅行や散歩で町をぶらつくと思わぬ厠にめぐり合うことがある。それぞれに個性豊かな厠である。

スコットランドの州都、エジンバラのPUBで1PINEのBEERを楽しみ、入った厠。全面が鏡張りの厠である。便器は家畜のえさ台よろしく雨樋方式。天井から鏡の上を清水がたえまなく流れ落ちておりいたって清潔。しかし、使用する者にとっては筑波山の四六のガマではないが、なんとも落ち着かない、酔いのさめる厠であった。



室の空間で大小を選ぶ必要のないものであった。金と黒と白を基調にタイル張りで白熱灯が点灯し、独特の空間を作り出していた。

東京は京橋の銀座寄りに衛生陶器メーカーの建物がある。1階に建築、美術関係図書を中心に特徴のある選択をした本屋がある。かって、その2階は小さなGALLERYと写真のような厠があり、来訪者が使用できた。完全に個

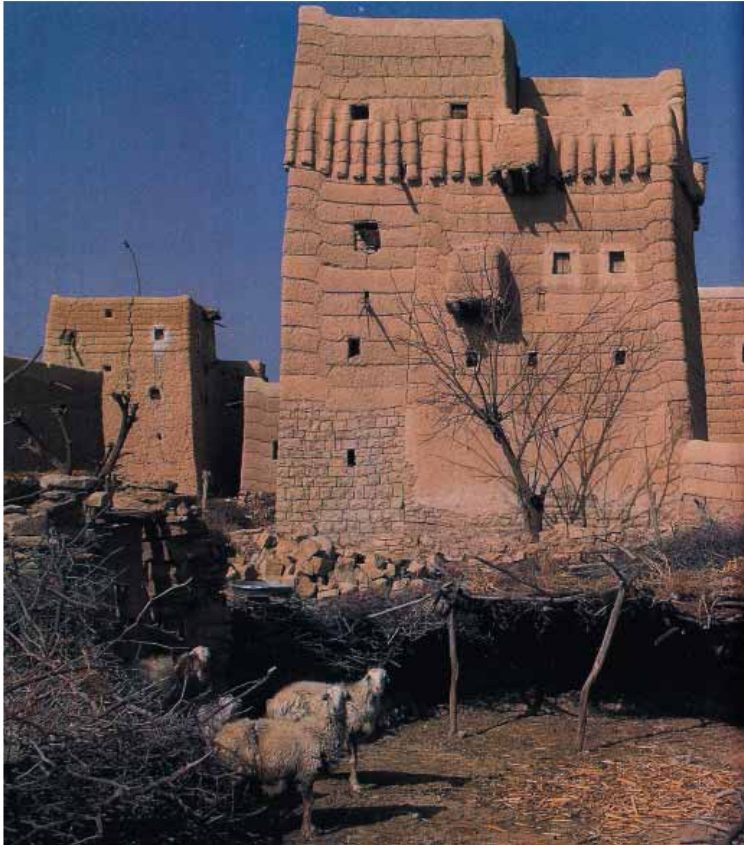
書籍を眺め、小さな展覧会を楽しみ、都会の真中でホット一息つける場を密かな場所としていた。この場所も2005年春から改装されてしまい、寂しいかぎりである。

2006年

2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

風と共に去りぬ



この突起トイレと同じ構造のトイレが中世ヨーロッパの城のトイレである。こちらはどのように消滅していったのか。

右 Chipchase Cstle GREAT BRITAIN.

イエメンの家はその過酷な気候の中で耐えられる材料で作らねばならない。



セメントは昼夜の激しい温度差に絶えられずすぐひびが生じてしまう。一番適しているのは下記のように作られる泥レンガである。 糞を泥に混ぜ素材を準備。日本の土壁を連想させる。 一定の枠にあわせて泥を盛り型を揃える。 天日で5 - 7日干し完成。 サイズの異なる泥レンガの完成。



アラビア半島南西端の国、イエメンの北部のサーダはサウジアラビアに近く付近の村の家は泥作り。イエメンサーダ近郊の村々の家は泥を厚く積んで造られる。家の形は国境を越えたサウジアラビア南部のそれに似る。泥を厚く積むのは暑さへの対処と、外敵からの防御のためだろう。二階や三階に突き出た突起はトイレだ。そのとき下を歩いている人は不運。落下したものは空気が乾燥しているため時をまたずして乾き、太陽の光でひびわれ、最終的に粉末になる。それらは砂塵と共に風に運ばれ、どこかへ飛んでゆ。これは地球環境に優しく、理想的なエコロジカル・トイレなのかもしれない。(週刊文春)

左上の民家、左の世界遺産シバムのマンハッタンの高層住宅、すべて台形をしている。泥レンガで造られているからである。上層階の重量を軽くして構造の安定を図るために大きいレンガから徐々に小さいレンガで壁を造っていく。1階で厚さ70cmの壁が6階では25cmになる。

参考資料
砂漠のマンハッタン NHK
週刊文春 2004.12.16号
Temples of Convenience St. Martin's Press

2006年

3 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

おとし紙無かりせば

排泄後の身の清潔を如何に保つかは重要な問題である。気候、文化によってその方法は色々である。紙を使用しているのは限られた地域、人々であるということを知っておかねばならない。一番多くの人を用いている方法は指と水を使用する方法である。インド、インドシナ半島の多くの市民は左手を用いて拭き、用意された水、もしくは自分で缶に入れて持参した水で指を洗う。左手は不浄の手となる。次に、乾燥地帯では砂と小石と土板である。砂漠の砂は細かく皮膚に優しい、小石は事前に用意し熱を下げておいたものを用いる。土板は乾燥地帯では簡単にでき、熱くなりにくいので有用だという。そして最後に、植物の葉である、日本においても最近まで使用されていた。この他、地中海地方では海綿、アメリカ中西部ではとうもろこしの毛、海岸地方では海藻、そして藁、木片、樹皮などである。

日本での平安時代の様子が餓鬼草紙に記録され、この時代からチュウギ(糞ペラ)と紙が使用されたことがわかる。チュウギとは木切れである。木切れで拭くのである。現代のように紙が圧倒的に使用されるまでには日本でも地方の環境に合ったものが使用、工夫されてきた。ウリハダカカエデ、胡桃、ネズコ、シナノキクリなどの小枝から山漆まで使用されたという。曲げ物、竹細工などが盛んな地方では材料の不要な部分を利用したことが多かったようである。ちゅうぎ以外にはあじさい、蔦、葛、柿、エビクサなどの葉、藁が利用された。これらもそのまま使用するのではなく水につけて軟らかくしたり、しおれさせて肌触りに配慮し工夫をした使用がなされていた。元慶応大学 西岡 秀雄 人文(人糞)地理学教授の著作が おとし紙の収集、研究としては有名である



国立東京博物館蔵 国宝 餓鬼草紙 (平安時代)

ちゅうぎと紙が使用されており、また、当時は高価であろう下駄をこの場でだけ使用していることが注意される。

参考資料
 落し紙以前
 トイレtpペーパーの文化史
 絵巻物に見る日本庶民生活誌
 論創社
 論創社 西岡秀雄著
 中央公論新社

2006年

4 月

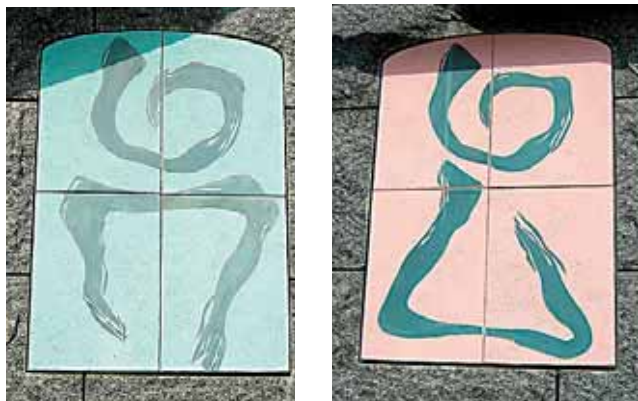
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

トイレを目にする

トイレの存在を表示するには市販の文字板にはじまり、デザインプレートが一般的であるが、店のイメージに合った洒落たプレートが、また美術館、公園、それぞれの業務、目的にふさわしいデザインプレートが考えられ、トイレの存在を心地よく表示している。このトイレ表示を注意していると意外な場所で洒落たものが目に入ってくる。特に外国を旅していると多いようである。

笠間市総合公園

茨城県笠間市は笠間焼の地。笠間市の総合公園のトイレの表示は陶器の町らしく陶板が用いられている。



切手の博物館

東京、目白駅の近くに切手の博物館がある。ここの表示は銅色の素材ですべて統一されている。トイレ表示も切手のデザインで作られている。



目白駅から博物館へのなだらかな坂道には同じ銅色の材料で作られた漱石の猫、白秋の詩などが目を楽しませてくれる。



参考資料
茨城県笠間市総合公園
東京 目白 切手博物館

2006年

5 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

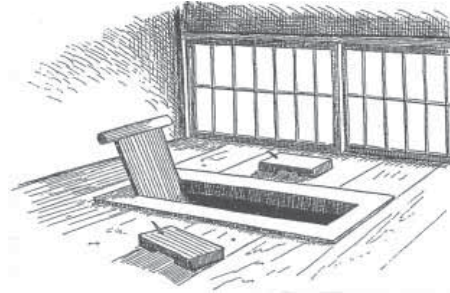
廁下駄



織部焼き向高小便器と廁下駄



小便器と廁下駄染付け



エドモンドモースの描いた上便所の鼻緒チョン立ち木製廁下駄

エドモンドモースの描いた上便所の上便所草履
明治時代



日本には他では見られない履物がある。それが廁下駄、今日ではトイレ用スリッパである。高床式住居生活は必ず住宅に入るとき履物を脱ぎ裸足になる。そしてその床で作業し作業台に、盆に食を盛り床をテーブルに、そして床に寝具を置き寝台にと床が生活の基礎になっている。これに対して欧米、中国の人々は履物を脱がず土足で通す。前者が上足文化（裸足文化）、後者が下足文化（土足文化）とも言われている。上足文化の生活は床に上下の序列、貴賤の位置づけをもたらした。

僧侶が修行を行うとき、禅堂、庫裏では裸足（上足）、禅堂の敷瓦、庫裏の土間、境内の通路、庭では草履（下足）であり東司（廁）では便所下駄を履いた。これが一般人の生活においては家屋の床は畳、板の間、縁側、等すべて家具であり清浄な床と位置づけられる。一方、廁は不浄な床としてそこに上足（裸足）で入るの

は憚られた。そのため廁で使用する履物が求められ、廁用の下駄、草履が使用されるようになった。その中に陶器製便器の出現と共に小便器専用（男性専用）に生まれてきたのが陶器製の廁下駄である。（歩くことはしない小用のときに足を乗せるための下駄である）。染付けの便器と同じ模様が染め付けられ作られた。そして床に埋め込まれてしまう廁下駄まで出現してたが、草履、スリッパに代わり使用されることがなくなった。



参考資料
おまるから始まる道具学 平凡社
日本の住い内と外 鹿島出版
世界タイル博物館併設便器展示館 常滑市

2006年

6 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

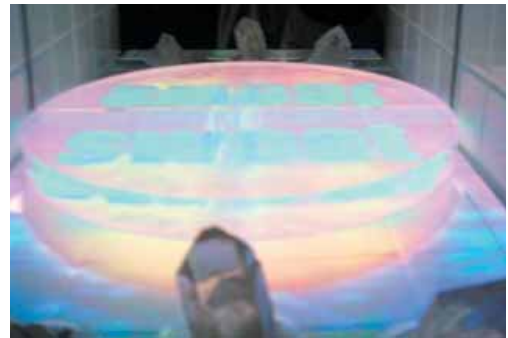
厠を芸術作品に

2004年10月金沢、兼六園に隣接するように金沢21世紀美術館が開館した。館内2ヶ所の厠が作品兼展示室そして実用のトイレになっている。

スイスのビデオ芸術家 Pipilotti Rist の作品である。ごく普通の表示がされた個室のトイレ、入り口に「あなたは自分を再生する (You renew you.)」という作品表示があるだけが他のトイレと異なる。ドアを開けると音楽がながれ、落ち着いた個人空間がある。壁に美しい空間が開かれている。この空間で過ごす間、時間と共に画像が変化して目を楽しませ心を癒す時が過ごせる。



作品内での作者
Pipilotti Rist



金沢21世紀美術館 21

作品ガイドより

誰もが必要とする場所、トイレ。その小さな部屋が、今回 神聖な空間 (神殿) と見立てられました。設置された小さなクリスタルに、食物の消化をイメージした、変化と再生を繰り返す神秘的な世界が表れます。



参考資料
金沢21世紀美術館開館記念展ガイドマップ
金沢21世紀美術館
新日曜美術館 2004.10 NHK

2006年

7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

自然を守る



早池峰



ミヤマオダマキ ハヤチネウスユキソウ ナンブトラノオ



山小屋の尿尿槽から汲み取る



専用のタンクに移しザックに



体力に合った量を背負い麓に



北アルプス山小屋の尿尿処理

今、全国の山小屋で問題になっているのが尿尿処理である。尿尿の量が自然の処理能力は勿論、山小屋の処理機能の能力を越え徐々に山の自然を過栄養状態にし生態系を変えてしまいつつある。自然の処理能力に期待する穴埋め方式・ガレ場放流方式、更に設備設置、運搬手段の確保で解決を図るヘリ輸送、処理装置設置方式などが山小屋の尿尿処理として考えられている。北アルプスの状況ですら右上の図の状況であるから日本の山の自然がいかに危機に瀕しているか明白である。

日本のエーデルワイスといわれるハヤチネウスユキソウ、ミヤマオダマキ、ナンブトラノオ、など美しい花を咲かせる高山植物が登山者を楽しませてくれる岩手県の早池峰（1917 m）で日本の山の悲鳴を救うユニークな活動が注目されている。美しい高山植物を守るため山好きのボランティアが月に1回、山小屋から麓まで尿尿を背負っておろす作業を行っている。50人で1日140kgをおろすという。

岩手県はこのグループにも参加を求めこの問題を長期にわたって検討をしている。このグループは設備の改善、拡充では根本的な解決にはならないのではと、登山者の山での排泄、自然に対するマナーの意識変化が必要と考え、自分の排泄物を持ち帰ることを考え、携帯トイレで尿尿を持ち帰るシステムが必要だとして登山者、行政に訴えてきている。美しい花の咲く花の名山早池峰を守るか行政と自然を愛する人々の連携が注目されている



袋になった携帯トイレ 漏れ臭いを防ぐ工夫した素材 専用の台に被せて使用

参考資料
北アルプストイレ事情 みるず書房
地球大好き どうする山のトイレ NHK
第4回全国山岳トイレシンポジウム in 富山 資料

2006年

8 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

重要文化財 厠



厠も歴史的に大切な建造物である。そこには文化的に貴重な資料を残し現在に大切な情報を伝えている。

現在 重要文化財として有名な厠が幾つか存在する。左の厠はそのうちの1ヶ所、北海道札幌市の北海道大学植物園内の厠である。世界で唯一残された蝦夷オオカミの剥製、南極で越冬したタロウの剥製、北海道開拓資料、考古学の資料などを転じている博物館を中心とした文化財群の1つとして保存されている。

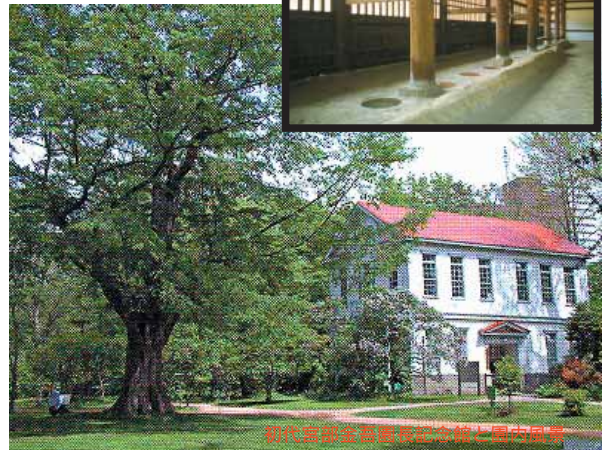
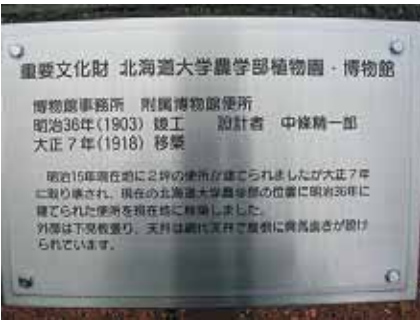
この他に沖縄県の中村家の豚便所、京都府東福寺の東司などが重要文化財として指定されている。



沖縄県 中村家豚便所（フル） 19世紀初頭



東福寺東司 外観と内部



砂漠のマンハッタン NHK
週刊文春 2004.12.16号
Temples of Convenience St. Martin's Press

2006年

9 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

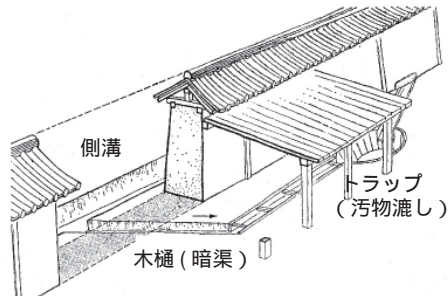
トイレ考古学

人が集団で生活を始めると自然が排泄物を処理してくれることは期待できなくなる。環境を維持し、生活を守るために排泄場所ができる。日本でそれは弥生時代であると言われている。縄文時代は住居近くのゴミ捨て場所、貝塚でなされていた形跡がある。貝塚でなされたものは周辺のためにいい。貝塚のものは貝殻で覆って形が崩れない所に貝柄のカルシウムが沈着し石のようになったものがある。それが糞石である。コプライトといわれ内容物を分析することで古代人の食べ物、生活を知る手がかりを与えてくれる。勿論、恐竜などの物から恐竜の生態を知る手がかりも得られる。これがトイレ考古学といわれる領域の一端である。



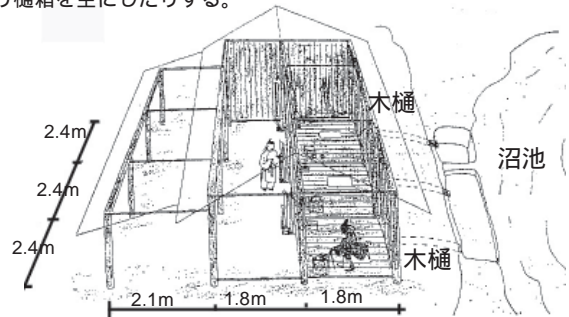
糞石は固く内容物を明らかにしにくい。顕微鏡用の標本を作製したり、三リン酸ナトリウムで軟化させて標本の内容物を調べる。肉眼での魚骨、鱗、種子などからは勿論、顕微鏡による寄生虫卵から食物としての中間宿主を明らかにでき、古代から中世にまでの時代による食生活の内容を明らかにできるようになり新しい学問領域となっている。

トイレの遺構も数多く調査されてきている、最古のトイレとして認められているのが藤原京の土杭式、水洗式の遺構である。平城京には水洗式の本格的トイレ樋殿が発掘されている。また、同時代の福岡県鴻臚館、秋田城には外国使節に供するために更に立派な施設が造られていた。



樋殿 平城京左京二条二坊水洗トイレ復元図
側溝に堰をして引水しその溝の上で排泄したり樋箱を空にしたりする。

815年の太政官府などには側溝の水をトイレに敷地内に引水しても良いが汚物を邸内で漉いて汚物を側溝に流してはならぬとしてある。



秋田城の水洗式トイレ建物復元図



糞石標本



糞石を薄く切り標本として顕微鏡に

上記のような遺構でトイレの場所を特定し、その場所の土をフローテーションという水流と比重を利用した方法で排泄物の内容を明らかにし中世の食生活を明らかにする。

フローテーションした泥

参考資料
日本の食文化 放送大学教育振興会
歴史評論 トイレから見た年の歴史と現在 1999 東京美術
トイレの考古学 オモシロ学問人生 トイレから古代が見える NHK

2006年

10月

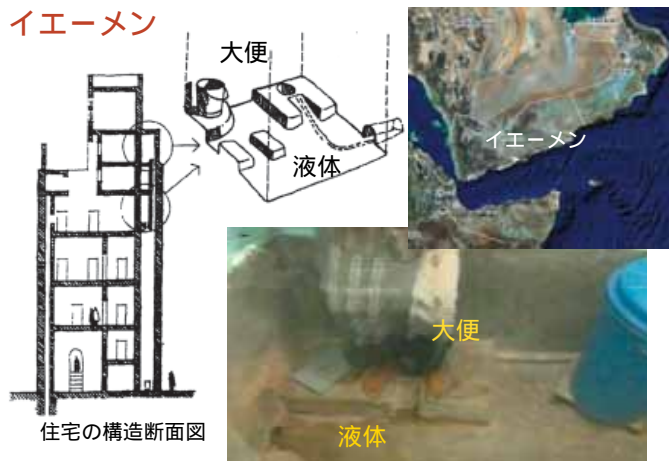
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

水の世紀

21世紀は石油ではなく水の重要性が計り知れなく増す世紀、「水の世紀」と考えられている。水洗トイレが文化生活と考えられてきて、飲み水である浄水を1人1日36リットルもの量を排泄物の運搬に使用し、更にその污水处理に水を使用するこの文化的と考えられてきたシステムをいつまで維持続けられるか。

水洗式に代わるものが自己処理（完結型）型トイレである。自己処理型には化学処理、生物処理、物理処理があるが、環境に配慮した尿尿処理システムとしてエコロジカルサンテーション（エコサニ・生態系を考慮した衛生対策）が注目、期待されている。

イエーメン



住宅の構造断面図



泥レンガの高層住宅

トイレはトルコ式 脇に洗い水乾燥と灼熱の環境、泥レンガの高層住宅は高層に人が住み低層は家畜の住い、トイレの横には左上図のように吹き抜けがあり尿とお尻を洗った水はその壁をつたわって落ちる間に蒸発するという、固形物は下の貯槽に溜められ、燃焼時の臭気に不安を持つが、太陽熱で乾燥され燃料として利用されるという。



サンサルバドル

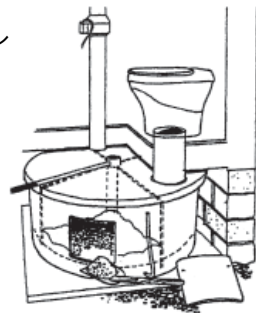
太陽熱集積装置付単槽トイレ

大小便を分離しないが太陽熱で脱水乾燥を早める。月数回固定した装置で便座下に蓄積した排泄物を太陽熱集積装置のついた中間処理槽へ押し込む。

ノルウェー

多槽回転式堆肥化トイレ

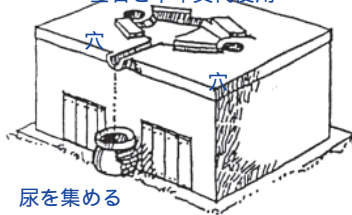
北欧伝統の大小便分離利用に基づくトイレ。便器に直結する内部タンクと地下に4つの貯溜槽を持つ外部タンクからなる。満杯になると次の槽に回転させる。固形分は堆肥化が進み水分は内部タンクの穴から外の蒸発槽に排出される。



ベトナム

並列貯槽脱水型トイレ

左右を半年交代使用



尿を集める

2つの貯溜槽があり、各層を半年交代で使用し使わない槽には蓋がしてある。各槽には大便耀の15cmくらいの穴があり、使用後は灰をかけておく。小便は傾斜したメンから樋をながれ外にある瓶に溜まる。小便は薄めて肥料になり大便は発酵させ病原菌を殺し有機物を分解してから肥料として使用する。

日本でも微生物を含んだ杉チップなどを利用して固形物を分解させるものが愛知万博、旭川動物園などで使用されてきている。

重要な点は大小便を分離させて排泄物を乾燥させて生物学的な処理を期待することであろう。

参考資料
砂漠のマンハッタン NHK
トイレ・水循環国際シンポジウム資料集 2003
ウンチとオシッコはどこへ行く 泉書房

2006年

11月

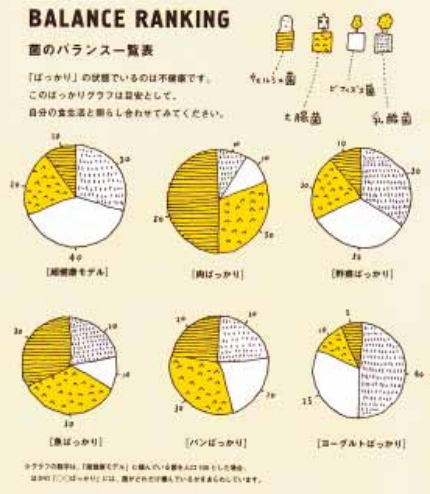
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

廁必備書籍

廁は個室である。そして出されたものは即、流されてしまう。他人のものは言うまでもなく自己の分身すら吟味することが少ない。自己の分身は自己の健康状態を如実に語るものであるという。自己の分身をときに吟味し健康状態、

食生活を省みることも必要である。吟味の際に必要な知識を与えてくれる文献が発行されている。

他人からは教えてもらうことの無い、形状、色、匂いからの知識を得られる。



2006年

1 2 月

参考資料
ウンココロ

実業之日本社

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						